

向陽台病院の健康情報誌「こもれび」

Komorebi

vol.79 AUTUMN 2023

60周年記念誌

こもれび

79

- 後編 -

HISTORY (後編)

医療法人横田会 沿革

向陽台病院は2023年で60周年を迎えました。
誕生してからの60年の歴史を写真と共に振り返ります。



2012

12月：南1病棟を精神科救急病棟 32床
(県内3番目)



2014

2月：訪問看護ステーション『ステップ』開設
9月：サテライトクリニック
『メンタルクリニック保田窪』開設

2013

3月：南2病棟を含め、
精神科救急病棟 48床

広報誌「こもれび」を振り返る

2004年に創刊し、79号を迎えました。
時代とともに変化してきた「こもれび」の表紙を
78号から引き続き掲載します。



ハード面が徐々に整ってきました。
必要としている患者さんに、必要な治療が提供できるよう、これからも進化を続けます。



反復経頭蓋磁気刺激装置 (rTMS)

2022

4月： 反復経頭蓋磁気刺激治療 (rTMS) 開始
11月： 熊本県依存症専門医療機関選定

2019

4月： 児童・思春期はユニットから
病棟へ 31床

10月： 精神科救急病棟 56床
(現 精神科救急急性期病棟)

2020

8月： クロザピン治療開始

2023

1月： 熊本県依存症治療拠点機関選定
9月： 60周年

2018

4月： 院内学級「ひかり」開級 (小中学生対象)



60周年を迎えて

これまで向陽台病院で一緒に働いてきたOB・OGの方々や現役スタッフにメッセージを頂きました。

1

佐藤 秀史 先生

プリヂストン熊本工場 専属産業医
(精神保健指定医)



60周年おめでとうございます。僕は常勤医師として、2005(平成17)年9月～2013(平成25)年3月まで勤務していました。これまで、向陽台病院で精神科に転科して精神保健指定医を取った2番目の古株です。入職当時の向陽台病院は、今のアリーナの場所に旧北病棟がありました。いわゆる古典的な窓に柵がついている精神科病棟でした。今の北病棟は「南病棟」と呼ばれ、1階が今の北3病棟の感じで、3階が精神科慢性期で体の動く長期入院患者さんの病棟。2階が急性期の体制でした。現在の病院内各部・各科の偉いスタッフもまだみんなヒラで患者さんと直接向かっていました。

佐藤は、元々麻酔科で、入職時に横田先生から修正型電気けいれん療法(m-ECT)の立ち上げを依頼されました。本当は2006年4月から開始と思っていたのですが、よくある横田先生からのせっつきがあり、2月に第1例目m-ECT。その後も週3回で実施。週3なので今の1.5倍の数をしていました。

その時の流れで、2007(平成19)年8月、まだ精神科2年生で診療部長に就任。精神科診療「以外」の医療関係分野のほとんどが担当となりました。NSTや褥瘡対策、2回の病院機能評価更新、南病棟建築などが主な関わった仕事になりました。指定医取得に1度こけてしまった要領の悪い診療部長でしたが、スタッフ皆さんの支えがあって管理職務を全うできました。ありがたいことです。

横田会は、僕が在職した約7年でハードもソフトも大きく動きました。その後も、人が足りない足りないは常ですが、少しずつ大きく成長しています。成長している組織の力はもう少し自己評価を上げて良いと外の僕は思います。

現在、紆余曲折ありましたが、プリヂストン熊本工場の初代専属産業医として産業精神分野を中心に働いています。向陽台では週1当直や週末・祝日を中心に勤務しています。当番日は、輪番でもないのに忙しいと有名なようです。今後ともよろしく願います。

最後は、佐藤の忘年会のあいさつで締めます。「みなさん、元気ですかー！」

2

牛島 洋景 先生

うじまこころの診療所 所長
(精神保健指定医)

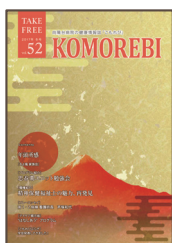


児童精神科医になることを志し、千葉県市川市にある国府台病院児童精神科に初めてきたのは2008年だった。2年間の研修を終え熊本に戻った。せっかく勉強したのだから児童精神科は続けたいと考え、当時院長だった横田周三先生にお願いして週3日働かせていただくこととなった。それが向陽台病病との「出会い」であった。

向陽台病院では外来の業務を主に担当した。外来の看護師さんはいつも愉快で楽しく、精神保健福祉士の方はスクールソーシャルワーカーの取り組みについて熱心に教えてくださった。心理士の方はインテークを取ってくださり、状況に応じて心理検査の予定を組み、検査後は全てのフィードバックを担当してくれた。2013年4月に国府台病院児童精神科に異動となったが、その時もスタッフの方々は私の転勤をお祝いしてくださった。この上なく快適な3年間だったと思う。国府台病院に転勤後は色々と苦勞も多く、向陽台病院のスタッフの方の優しさを実感することも多かった。そんな中でも、向陽台病院で行っていたコメディカルスタッフのやり方を一部を国府台病院で導入させていただき、患者さんからは好評を得ることでなんとか辛い局面も乗り切った。

そして自分は2020年4月から千葉県の市川市で診療所を開業するにあたり、向陽台病院で出会った二宮くんが副院長になってもらった。当然、そのやり方を継承した。診療所を開業して2年目には精神保健福祉士を雇用することもできた。その人はスクールソーシャルワーカーもしており、向陽台病院で教えていただいた事と、その人の経験を活かしながら、日々試行錯誤している。

仕事の後、二宮くんと事例のことを話しながら酒を飲むことがよくある。濱本さんや植村先生が送ってくださったお酒をいただきながら話をする日は最高に贅沢だと思う。彼は「誰と飲むかが大事」と何度もいう。僕は、お酒はもちろんだが、臨床に携わるものとして、「誰と臨床を経験してきたか、どこで臨床を経験してきたか」がすごく大事だと感じている。向陽台病院のスタッフの方と、向陽台病院で3年間働いた時間は自分の財産である。勝手ではあるが、これからも一緒に歩むつもりである。



01 電子カルテとレセプト コンピューターが替わります！

よりよい患者サービスに繋がるようシステムを新しくすることになりました。

2004年に電子カルテを導入し、2014年に乗換えました。今回、改めて電子カルテおよびレセプトコンピューターの乗換えを予定しています。操作研修やリハーサルを重ね、できる限りスムーズにいこう準備をしていますが、導入当初は待ち時間が長くなるなど、患者さん、ご家族、関係機関等にご不便をかけてしまうことが予想されます。ご来院の際は、時間にゆとりをもってお越しください。ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

02 おふらいんキャンプ2023 in 阿蘇 9月16日(土)・17日(日)

次号で特集します。
お楽しみに！



動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの2023年6月から8月の動向を掲載しています。

集計月	2023年 6月	2023年 7月	2023年 8月
外来延数	2,557	2,465	2,601
新患者	63	53	49
1か月ごとの入院患者数			
入院	52	58	52
退院	44	42	58

編集後記

真ん中ですが、編集後記…。

60周年準備委員会で企画を進めてきた特集号(前編/後編)がついに完成しました。歴史を振り返り、ゆかりのある方や一緒に働く仲間からたくさんのメッセージをいただきました。喜びをかみしめ、新しい一歩をふみ出します。
(杉本千佳子)

「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています！

私たちは「こもれび」をととして、皆さまに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見をお聞かせください。(広報委員会)

3

徳永 佑美 さん

山鹿市教育委員会・菊陽町教育委員会
スクールソーシャルワーカー(精神保健福祉士)



60周年、誠におめでとうございます。私が向陽台病院に入職したのは、ちょうど現在の外来部分の建物が建て替わる直前の2000年(平成12年)の春。大学卒業したばかりの、まだ学生気分が抜けきれない私の仕事は、荷物の運び出しからスタートしました。それから退職するまでの約20年間は、横田会の激動の変化と共に駆け抜けていったように思います。毎年のように新しい事業を展開し、息つく暇もなく、苦しい時もありましたが、振り返ってみると、救急や思春期医療まで治療の幅を広げ、医療だけではなく、障害福祉の事業も充実させていくなど、病院のスケールが大きくなった姿を見ると、非常に感慨深いものがあります。入職当時まで青かった私は、横田理事長はじめ、医師の方々に叱咤激励していただいたり、さまざまな患者さんと触れ合ったりして、私の職業人としての礎が作られていきました。他にも、急性期病棟、救急病棟、思春期病棟の立ち上げ、院内学級招致、九州集団療法研究会事務局、なでこクラブ実施など、様々な事業に携わらせていただきました。

私にとって大きかったのは、2007年(平成19年)、熊本県で初めてスクールソーシャルワーカー(SSWr)導入の際、当時の上司であった植村事務長と、横田理事長が「頑張ってやってきなさい」と快く背中を押してくださったことです。そこから、向陽台のMHSWとSSWrの二足の草鞋を履かせていただくことになりました。何より、向陽台を中からだけでなく、同時に外からも見ることができた貴重な体験となりました。その体験の中で、私は、学校にいる子どもたちがいかにメンタルヘルスの危機を抱えているのかということを知ることになります。結果的には悩みぬいた結果、向陽台を卒業し、SSWrの業界に大きく舵を切ることになりましたが、働きながら、向陽台で経験したことが、私の価値や倫理観を醸成させてくれたのだと気づかされます。感謝に堪えません。

改めて、向陽台は常に新たな方向へ進む、クリエイティブで、そこから学ぶことができる非常に稀有で面白い病院だと思っています。私は連携をさせていただく立場になりましたが、今後ともよろしく願いいたします。さらなる「横田会劇場」を楽しみに、発展を祈念いたします。



60周年を迎えて

現役スタッフにはいくつかのお題の中から選んで書いてもらいました。

4

井上 裕子 さん

診療部副部長・薬局長
(薬剤師・入職4年目)



●向陽台病院を漢字一文字で表すと…

それは「向」です。病院名にもありますが、「方向」などに使われるように「むき」という意味や、「向学」「意向」などのように「心がめざすこと」といった意味があるそうです。患者さんを最優先に考え、守り、正確な診断や適切な治療方法を提供し、スタッフが最新の医学知識を習得し専門性を高めることが、私達が目指す「向(むき、心がめざすこと)」なのだ、と日々気持ちを新たにしています。

●向陽台病院での思い出

2019年12月に入職して、4年目になります。向陽台病院に来て驚いたことは、朝の全職種が参加するミーティングです。それまでの私は、医療従事者は忙しいのだから朝から会議などしている暇はない、という考えでした。しかし、ミーティングに参加してみると、その内容の深さに驚き、すぐに重要性に気づきました。患者さんのリアルタイムの情報を業務の始まりに共有し、各職種がその専門性を活かしてすぐに介入することのできる仕組みがあることに感激したのが最初の思い出です。

●これからの向陽台病院

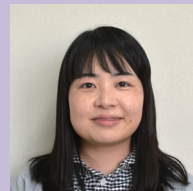
精神科の治療として精神療法、薬物療法、作業療法、がよく挙げられますが、向陽台病院ではこれらの治療方法に加えて、電気けいれん療法(ECT)、電気磁気刺激療法(rTMS)、栄養指導など沢山の治療の選択肢を用意しています。私の専門とする薬物療法では、クロザピンなどの特別な管理が必要な薬を扱う場合でも安全で効果的に治療をすすめることができるようにスタッフは研鑽を積み、患者さんやその家族の方たちの期待に応える体制を作ってきました。

60周年という節目に、今また新たな歴史を作ろうとしている向陽台病院の職員として、一緒に歩んできた患者さんやその家族、そして地域の皆様への感謝を新たに、これからも「ここ植木町に向陽台病院があって良かった!」と思っただけのよう、みなさまの期待に応える病院づくりに全力で取り組んでまいります。

5

山本 歩美 さん

障害者相談支援事業所なでしこ
副主任
(精神保健福祉士・入職14年目)



●向陽台病院での思い出

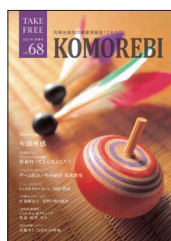
横田会に入職してからの長いようであつという間の10数年を振り返りますと、新社会人として不安を感じつつ、目の前の仕事に懸命に取り組んだ病院での勤務。次に、他職種と一緒にプログラムを作り、専門性をより磨く場となったデイケア、生活の視点を住まいの場に活かすグループホーム、そして現在は、利用者が希望する生活に近づけるようサポートする相談支援事業に携わっています。一言で精神保健福祉士と言っても、部署が違えば求められることも様々で、そのたびに戸惑いや葛藤を感じつつ、けれど新たな発見や気づきを得られています。私の心に残る思い出は、植木町の地域イベントへの参加、地域在宅支援事業で開催した福祉まつり、以前は恒例だった地域活動支援センターなでしこの流しそうめんや餅つきなどの行事で、たくさんの人と出会い、いろいろな“つながり”を感じることができたことです。今の私があるのは、周りの人との“つながり”があったからだ感謝しています。

●私のリフレッシュ法

日記をつけること、洗濯・片付け、おいしい食事、友人とのおしゃべり、個性的な文房具集めと色々ありますが、中でもイチパンのリフレッシュ法は、好きなアーティストの<推し活>です。特に、ライブに参戦しおもしろい弾け、会場一帯が同じ気持ちで盛り上がっている時に“つながり”を感じます。

●これからの意気込み

仕事においても日常生活においても培ってきた“つながり”や発見、気づきを大切に、利用者さんへのよりよいサポートを実現するため、精神保健福祉士としてよりいっそう自己研鑽に励んでいきたいと思います。



6

岡野 彩嘉 さん

リハビリテーション部 作業療法科
(作業療法士・入職15年目)



●向陽台病院の思い出

病棟勤務として入職後、デイケア、訪問、現在はまた病棟に戻って勤務しています。デイケア勤務で訪問に行っていた時期は、利用者の方と平日はデイケアで、週末は自宅で関わっていました。毎日のように顔を合わせ、「もういいよ」と思われていたかもしれませんが、さまざまな形でおもてなしをしてもらいました。自宅に行くとは生活環境が把握しやすく、集団では見えにくい新たな人柄を知れたり、本当の困り事や課題に気づくことも多かったです。料理や運動、掃除など自宅でしかできないことを一緒に取り組み、時には大変なこともありましたが、印象深い思い出です。時間をかけて長期に渡り関わってきたからこそ、数年経った今でも貴重な経験として活かされています。

●リフレッシュ

昨年から週末のみ朝散歩を始めました。元々、朝起きが人の苦手な朝から散歩に行くなんて絶対無理だと思っていました。始めた頃は緩い坂道でも息が上がっていたのですが、少しずつ体力もつき、疲れを感じにくくなりました。日の出前に起床し、高い所から日の出待ちをしたり、新しい道を見つけたり、歩く速さも時間も気にせず、自然を眺めながらただ歩くのですが、スッキリとした気持ちになります。帰宅後、二度寝することもあります。それも含めて大切なリフレッシュの時間です。年を重ね、健康体にも自信が持てなくなってきました。健康維持のためにも、長く続けます。

●これから

今担当している病棟では、年齢も疾患も幅広く、さまざまな方と関わっています。退院支援の内容もさまざまで、苦慮することもあります。OTだけでは困難なことも他職種・外部関係機関と連携することで、幅広い退院支援に繋がることを実感しています。今後も連携を強みにして、その方に合わせたサポートをしていきます。

7

的野 史絵 さん

医療支援部 医事情報管理課
(入職7年目)



●リフレッシュ方法

子どもが生まれる前は、休みの日はひたすら映画や本をベッドの上でゴロゴロしながら見る事がリフレッシュ方法でしたが。子どもが生まれてからは中々自分の時間を持つことができなくなってしまいました。子どもも少し大きくなり、ある程度の事が自分でできるようになってからは、子どもと一緒に外出先がリフレッシュ方法になりました。お休みの日は、子どもと一緒にスタバに行ったり、映画を見たり。まだまだ、子どもがメインな部分も多いですが、公園で遊んだり、映画を見て、その映画について話をしたり、甘いものを食べたりする時間が今の私の大事なリフレッシュの時間になっています。

●向陽台病院での思い出

医師の診察補助で診察に入ることが多く、診察室という場所で患者さんと関わる事が多くありました。当初は診察の邪魔にならないようにひたすらパソコンの画面を見ながら文字を入力していました。ある時、病棟での診察で、OTの時間で作ったものを「パソコンのお姉さんに」とくれた患者さんがいました。その時に、患者さんにとって、私はただ文字を打っている人ではないんだと気づかされました。それから患者さんが言った言葉をそのまま書くだけでなく、診察をスムーズにするためにはどのようにしたらいいのかを考えながら診察室に入るようにしています。以前に比べると診察補助に入ることは減りましたが、これからも患者さんからどのように見られているかを意識していきたいです。

●意気込み/自分が取り組んでいきたいこと

基本的には、ひたすらパソコンや資料と「にらめっこ」な事が多い部署です。

患者さんと直接関わる事が少ない部署ですが、病院全体の事を把握しなくてはならない重要な部署だと思っています。医師や他のスタッフの縁の下の力持ちで頑張っていきたいです。



診察のごあんない (2023年10月現在)

月	火	水	木	金
比江島 (13:00~17:00)	比江島 (9:00~14:00)	猪山	兼氏	田仲
新堀	田仲	橘高	牧/宮崎 [隔週]	河崎
伊藤	森並	横田(晃) [隔週]	長田	武藤

※担当医は予告なく変更になる場合がございます

祝日は外来をお休みします

- 診療科目：精神科・心療内科・児童精神科
- 病床数：198床
- 外来診療時間：月～金曜日 9時40分～16時
- 外来休診日：祝・土・日曜日

初めて受診される方へ

当院は予約制です。初めての方は、地域連携室へお電話ください。☎ 096-272-0908 (初診予約専用ダイヤル)

※地域連携室直通 (096-272-5250) は業務用となります。

電話の際、①お名前 ②相談内容 ③連絡先などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当日の所要時間は問診や診察、検査などを含め、2時間程度とお考えください。

病院理念

私たち向陽台病院は、地域医療のなかで安全で効果的な精神科医療を提供するために、職員の知恵を結集し、迅速かつ包容力のある対応ができる病院を目指します。

患者さんの権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。
また、他の医療機関の医師の意見(セカンド・オピニオン)を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。

交通アクセス

🚌【産交バス】向坂バス停から徒歩3分 投刀塚バス停から徒歩3分

🚗【車】植木ICから15分 北熊本スマートICから10分

🚆【JR】植木駅下車 → タクシーで6分



医療法人横田会 向陽台病院

熊本県熊本市北区植木町鐙田1025 tel.096-272-7211



当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとはあと評価(認定3/Stage-1)の第三者評価認定を受けています。



当院は、2005年から財団法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2020年1月に3rdG:ver2.0で再認定されました。

- 日本精神神経学会専門医研修指定病院
- 日本精神科病院協会認定専門医研修病院
- 子どものこころ専門医研修施設
- 熊本県依存症専門医療機関
- 熊本県依存症治療拠点病院



上のQRコードをQRコード対応携帯で読み込むと向陽台病院サイトにアクセスできます。